

Ver4→Ver5の機能紹介

画面はHYPER PLUSの画面です。製品により画面が若干異なります。

Ver4.X→Ver5.0の追加機能

■対応OSの違い

Ver4.0 XP/vista/7

Ver4.5 XP/vista/7/8

Ver5.0 XP/vista/7/8/8.1

■機能の違い (Ver5で追加された機能)

・コピー解除フォルダ”*Document”の名称変更

コピー解除フォルダ”*Document”の名称変更ができるようになりました。Ver4.Xでは固定で変更はできませんでした。

・マルチランゲージ対応

外国のOSで利用できるようになりました。表示言語を選べるようになりました。初期状態では自動判定になります。対応言語は日本語、英語、韓国語、中国(簡体字)になります。

・設定レポート出力機能

設定内容をレポート機能でsetting.txtが保存できるようになりました。

・レスキューモード(HYPERシリーズ)

別名保存の禁止機能にレスキューモードが加わりました。管理パスワード入力で別名保存を一時的に解除できる機能です。EXCELなどで保存前に誤ってUSBメモリを抜くと保存ができなくなるので、これに対応できる機能です。

・利用回数の設定

利用回数を設定できるようになりました。

・利用日数の設定

利用開始日から30日間というような設定ができるようになりました。

・利用期限のお知らせ表示

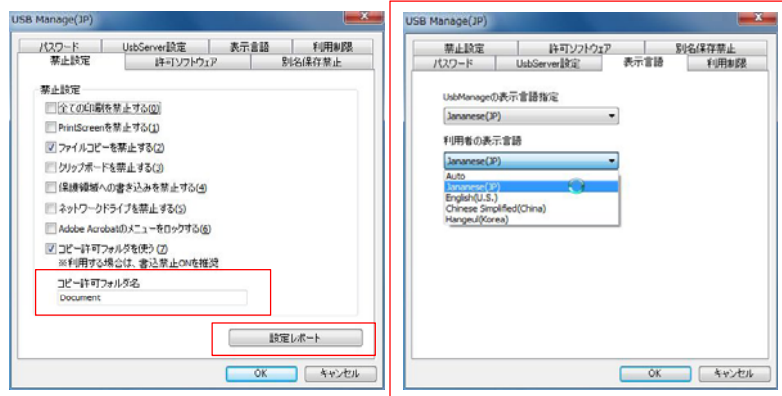
利用開始前に利用期限、回数を設定した場合のお知らせを表示する事ができます。表示は、保護領域切り替え中画面でも表示されます。

・特定パソコンの禁止設定解除(HYPERシリーズ)

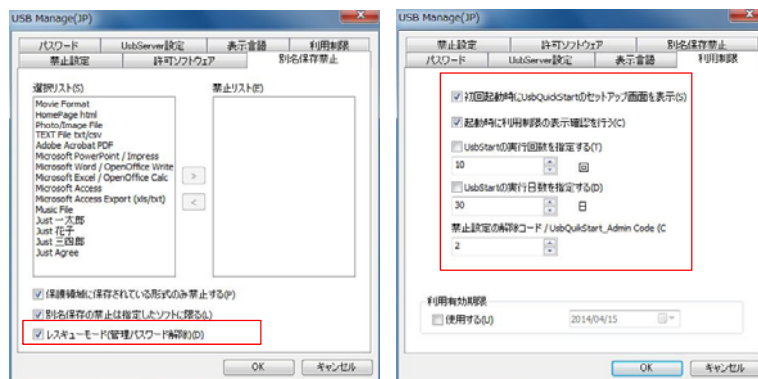
UsbQuickStart_Adminに解除コード設定が追加されました。特定のパソコンでファイルコピー禁止等の禁止設定を解除できる機能です。

・UsbQuickStartセットアップ画面の表示

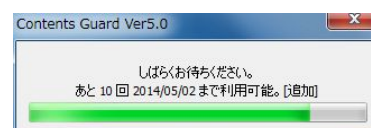
UsbQuickStartセットアップ画面の表示/非表示を指定できるようになりました。



※表示言語の設定



利用前確認 (任意表示)



制限設定を行うと必ず表示されます。

ユーザープログラムの自動実行

保護領域を表示したときに自動実行ができるようになりました。

UsbQuickStartをセットアップしたパソコンでユーザープログラムの実行ができるようになりました。(vbsスクリプトの設定が必要です。設定にはvbsの知識が必要です)

Windowsにはautorun.infという自動実行の仕組みがありますが、書き込みができるUSBメモリのようなメディアでは自動実行が動きません。この機能を補う為にUsbQuickStartで提供されている機能です。



附属ソフトUSBステルス

USBステルス(HYPER附属)ソフトがVer2.0になりました。非表示状態でもプログラムの実行やファイルを開く事ができるように、非表示のみで暗号化を解除できる設定が付きました。

コピーできないUSBメモリシリーズ

コピーガード機能の確認とメリット

コピーガードUSBメモリでは、以下のような機能があります。保護機能を設定する場合、何ができるかを覚えておく必要があります。

保護設定ができる機能

- ユーザーパスワード設定
- 管理パスワード設定
- ファイルコピーの禁止
- 画面キャプチャー(プリントスクリーン)の禁止
- 保存されているコンテンツの修正(上書き保存)。ACCESSなどのデータベースソフトでも利用が可能です。
- ファイルの削除の禁止
- ファイル書き込みの禁止
- ネットワーク共有の禁止
- クリップボード(コピー&ペースト)の利用を禁止
- コピー許可フォルダの設置
- 利用許可ソフトの登録
- 別名保存の禁止
- 印刷の禁止
- 閲覧期限の設定(固定した日付指定)
- 利用可能回数を設定(例:10回利用等) Ver5
- 初めて利用した日から利用日数を設定(例:30日間利用等) Ver5
- パソコンに専用ソフトをセットアップする必要がありません。(※1)
- 制限ユーザーアカウントでも利用が可能です。(※1)
- マルチランゲージ対応(日、英、中、韓)Ver5

- レスキューモード(管理者パスワードで別名保存を一時的に解除)
- 特定パソコンでの禁止解除(解除コード設定)
- 許可プログラムを設定しない設定が可能
- ファイルコピー禁止状態でのファイル追加
- USBステルス(ファイルを見えなくするソフト)が附属
- 利用者用のパスワード変更ソフト UsbPWが附属

Hyperシリーズのみの機能

※1)制限ユーザーアカウントではUsbQuickStartのセットアップが必要です。

※2)DRM:Digital Rights Management,デジタル著作権管理

■UsbServerを使った場合の機能(附属ソフト)

- 保存されているファイル一覧の記録(履歴)・検索
- 外部利用の禁止(持ち出し禁止設定)
- サーバー承認での禁止設定の解除
- どのUSBメモリに何が保存されているか? UsbSearch
- アクセス履歴、利用統計など

HyperPLUSの機能

■一般的なUSBメモリとの比較メリット

○ 利用開始前のパスワード設定ができますので紛失時にも安心

○ パスワードを知っている人でもコピーができません。

○ 印刷の禁止など各種の制限を設定できます。

○ 既に保存されているデータを一時的に見えなくする事ができます。

附属ソフトUSBステルスを利用。USBメモリでデータを渡す時に、無関係なデータを一括で隠す事ができるので便利です。

○ オートロック機能

パスワードロック操作は不要です。USBメモリを取り外すとロックされ必ずパスワード入力から開始になります。

■ファイルコピー禁止を解除する

ハイパープラスUSBメモリでは特定の条件でファイルコピー禁止などを解除する機能があります。コピーが禁止にならない場合は、以下のコピー解除条件に該当しているか確認して下さい。

○ コピー禁止を解除するフォルダの利用(※Documentフォルダ)

ファイルコピー禁止を解除できるフォルダを利用する場合は、このフォルダのファイルはファイルコピー禁止の対象になりません。

○ UsbQuickStart_Adminのセットアップ

特定のパソコンで禁止設定を解除できます。解除コードの設定が必要です。UsbManage→利用制限→解除コード

○ UsbManageのファイルコピー禁止OFF(初期値ON)

UsbManageの禁止設定でファイルコピーを解除する事ができます。パスワードのみのセキュリティーで良い場合は、ファイルコピーを許可します。

Hyperシリーズのみの機能

Ver4.X→Ver5.0へのバージョンアップ



製品サポートページより

バージョンアッププログラムをダウンロードして下さい。
対象のUSBメモリをパソコンに挿入後、バージョンアッププログラムを実行するとVer5.0にバージョンアップできます。

このバージョンアップソフトはコンテンツガード、ハイパーセキュリティ、ハイパープラス全ての製品の更新が可能です。ただし、バージョンアップソフトに附属しているPDFマニュアルが異なりますので各製品ページ専用の更新プログラムをご利用下さい。

バージョンアップソフトは、OEM供給しているお客様向けに表示している文字は全て編集可能な作りになっています。使用許諾の内容やメッセージなどを変更しエンドユーザー様に配布する事も自由です。

■VerUP更新プログラムの再配布に関して

エンドユーザーへUSBメモリを配布している場合は、VerUP更新プログラムを再配布可能です。更新プログラムは、使用権許諾や画面メッセージなどを全て編集可能な作りになっています。お客様側で用意した説明文(Readme.txt)なども配布可能です。

更新プログラムでは保護領域側に保存されているコンテンツやコピー禁止などの設定内容には影響はありません。VerUP更新プログラムの「**UsbManageを含まない**」システムファイルのみをダウンロードして以下のファイルを修正して下さい。

1. 更新プログラムで表示されるメッセージはResourceフォルダにある以下のファイルを修正して下さい。

使用権許諾 Readme.txt (テキストファイル)

画面メッセージ CG_VerUp.cfg (テキストファイル)

2. 説明などコピーするコンテンツを以下のフォルダに入れて下さい。

更新は非保護領域のシステムファイルのみです。設定変更や領域変更、保護領域側のコンテンツ差し替えはできません。

Resourceフォルダ内のCG/HS/HPフォルダ

対象商品がコンテンツガードの場合は CGフォルダがコピーされます。

対象商品がハイパーセキュリティの場合は HSフォルダがコピーされます。

対象商品がハイパープラスの場合は HPフォルダがコピーされます。

■更新プログラムのダウンロードURL

<http://www.abroad-sys.com/memory/VerUP.html>

又は 各製品ページの「サポート」ページからもアクセスができます。